

4 学年〇組 道徳学習指導案

平成 21 年 月 日 (〇曜日) 第〇時限目 場所：4 年〇組教室 指導者 内山 幹夫

1 主題名 ないた赤おに 2－(3) 信頼・友情

2 主題について

(1) 学級の児童の実態

本学級の児童(男子 18 人 女子 16 人)は、4 月に縦割り班による遠足を行った。遠足に向けての準備では、「仲がよい子同士でグループを組みたいな。」という声も聞かれた。しかし、子どもたちに様々な子のよさを知ってほしいと考え、男女混合の無作為的なグループ構成を組んで準備を行った。グループの中には、普段あまりかかわりをもたない子どもたちがいながらも、仲よく準備をすることができた。

日常の様子を見てみると、子どもたちは放課になると声を掛け合って仲よく鬼遊びをしたり、ボール遊びをしたりしている。学級全体として仲がよく、友達関係は良好に見える。

ところが、仲よくしている子ども同士の仲間集団をよく観察してみると、特定の少人数でグループを組んで誕生日のプレゼント交換などをする姿や、自分のやりたいことを主張し過ぎて衝突する場面が見られた。また、友達がよくないことをしていても、陰口を言われるのが怖いからか、注意をしない場面も見られた。これらは、仲間が集団の第一の存在となる中学年の発達段階としてはよく見られる行動である。しかし、これらは自分の利害を優先にした、自分を守る自己中心的な考えからくるものであるといえる。

このように、子どもたちの行動をよく見てみると、仲間のよさを実感できる集団になっていない部分もある。そこで仲間のよさを十分に実感できる集団を育成していくことが大切であると考えた。



(2) 学習内容

中学年という友達とは、身近な友達だけでなく、遠方の友達も含めた友達である。低学年より友達関係の広がりを期待している。

その友達は、それぞれのよさをもっているし、特技ももっている。ものの見方や考え方も違っている。

人間は一人では生きていけない。共に生きるためには、一緒に遊んだり、学んだり、物を作ったりしてお互いの違いや共通点を理解し合うことが大切になってくる。そして、理解し合う中で、お互いの信頼が生まれてくる。こうして、お互いの信頼が生まれると、お互いの持ち味や特技を生かし合って支え合ったり、協力して物事を成し遂げたりするなどというように、助け合おうとする心が生まれてくると考える。

これらのことは、思いが一方通行では成し遂げられない。思いが双方向になることが必要である。個性がわがままになってしまっていては、お互いの思いが、双方向になることは、難しい。ここで自らが進んで、友達を理解し、助け合っていこうとする気持ちが大切になってくる。

このように、理解と助け合いに基づいた友達を大切にしていこうとする気持ちをもたせるために、本主題での学習は意義があると考ええる。

(3) 資料の解釈と取り扱い

赤おには、村人と仲よくなりたいと思うが、村人たちは、外見の違いから驚き逃げてしまう。赤おにが村人と仲よくなるために、青おには、人間の前で暴れ、赤おにに成敗されるという芝居を考えた。友達の赤おにの願いをかなえたいという青おにの気持ちから生まれた芝居である。赤おには、村人と仲よくなりたいという欲求と青おにをたたいては悪いという気持ちでその芝居をするべきかどうか揺れ動く。赤おには、結果的に青おにの芝居を受け入れ、人間と仲よくなれたが、青おには去ってしまうという内容である。

本時では、次の三つの場面を中心に主人公の気持ちを考えさせ、ねらいにせまっていきたい。

第一に、赤おにが涙を流す場面である。青おにの家を訪ねた時、戸にはあってあった紙を見ることによって涙を流し、青おにが赤おにのことを考えてくれていた思いに気づく。人間と仲よくなってすっかり忘れていた、青おにへの思いがよみがえる。ここで、赤おにの**自己中心的な考えをとらえ、内省している気持ち**をとらえさせていきたい。



第二に、青おにが旅に出ることを赤おにが知った場面である。人は、他者からの自分への思いを知ることで、深く内省することができる。よって、赤おにが深く内省した気持ちをとらえるために、赤おにの身になって青おにが旅に出ていく時の気持ちを想像させたい。青おにの気持ちを想像させることによって赤おにが**他者の思いに目を向けている気持ち**をとらえさせていきたい。



第三に、赤おにが青おにからの手紙を二度三度と読み返して、これからどう生きていくかを考えていく場面である。赤おにが、人間と仲よくなることができたのは、青おにの助けがあったからである。赤おには、手紙を二度三度と読み返しながら青おにの思いを確かめる。青おにの思いを確かめながら、赤おには、自分の至らなさを振り返っているはずである。そんな赤おにが今後大切な友達を失わないように、自分から友達のことを考えていきたいと思う、赤おに自身が**自分を高めている気持ち**を想像させていきたい。



3 指導計画 (1 時間完了)

4 本時の指導

(1) 目 標

自分のことを考えてくれた友達の思いを知った時の気持ちを感じ取り、自分から友達を大切にしていこうとする気持ちをもつ。

(2) 準 備

読み物「ないた赤おに」(プリントで配付) 道徳ノート プリント 手紙
場面絵(村人が遊びに来た場面) 人物絵

(3) 関 連

3年「ドッジボール」 5年「一まいの色紙」

(4) 指導過程

時間	学習活動	教材等	教師の発問	期待する児童の発言や心の動き
5分	1 「自分」と「友達」のことを考える。	座席表	① 友達に何かをしてもらって、うれしかったなと思ったことにどんなことがありますか。	①・友達と遊んだ時。 ・友達に「遊ぼう」と誘ってもらった時。 ・自分がけがをした時に、保健室についていってもらった時 ・自分の誕生日にプレゼントをくれた時。 (友達に何かしてもらったり、何かをもらったりすることは多いことに気づく。)
30分 (8分)	2 資料「ないた赤おに」を読み、赤おにの気持ちについて考える。	読み物資料 人物絵		
(5分)	(1) 赤おにが、村人と仲よくなった時。	人物絵 場面絵	② 赤おにが、毎日、にこにこしていた時はどんな気持ちですか。	②・お酒を飲んだり、おいしいものを食べたりでき、うれしい。 ・楽しいな。 ・うれしいな。 ・もっと村人と遊んでいたいな。 ・毎日、村人が遊びに来てくれて幸せだなあ。 ・ずっとこんな楽しい時間が続いてほしいな。 (村人が、赤おにのことを安心して遊びに来て、うれしいといった気持ちに、子どもたちは浸っていく。青おにのことを子どもたちも忘れ去る。)

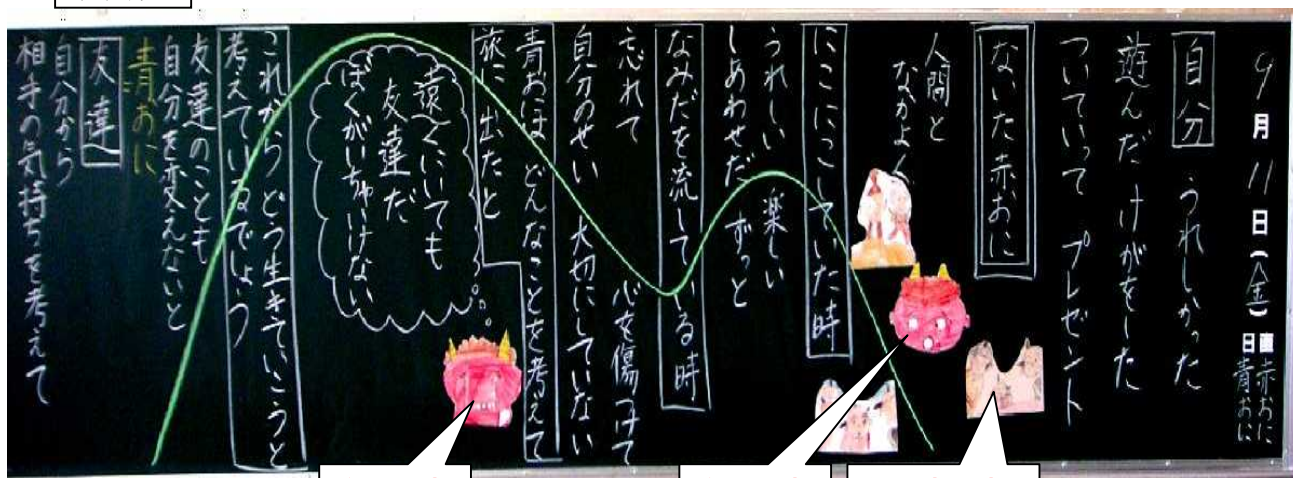
指導上の留意点（★は配慮を要する児童への働きかけ）	評価の観点と方法
○ 子どもたちが、自分と友達のことを考えていくということを意識させるために、黒板の右端に「自分」と、黒板の左端に「友達」と記述する。 ○ ①の発問に対する、子どもたちの発言があった後、資料を通して、自分と友達のことを考えていくことを知らせる。子どもたちに資料から考える問題意識を明確にさせる意図がある。 ○ 資料理解をしやすくするために、資料を読む前に、黒板に山を描き、主人公の赤おにの人物絵をはる。 ○ 提示する赤おに・青おに・村人の人物絵は、子どもたちが制作したものを活用し、意欲を高める。 ○ 資料を読みながら、赤おにが村人と仲よくしたい思いや赤おにが村人と仲よくなった様子などを提示していく。 ○ ②の発問につなぐために、赤おにが「人間と仲よくになりたい」という願いは、達成できたかどうか問う。 ○ 赤おにが、楽しんでいる様子を考えやすくするために、赤おにが楽しそうにしている場面絵を提示する。 ○ 村人の人物絵を多数用意して、赤おにの周りに次々にはる。赤おにの周りにはることで、赤おにに仲間がで、楽しい様子を浮き彫りにさせる。 ○ 赤おにが楽しんでいる様子のみを子どもたちから引き出すようにする。赤おにが楽しんでいる気持ちに子どもたちを浸らせていくねらいがある。 ○ 赤おにが青おにを忘れて、楽しんでいる気持ちに浸らすことによって、発問③の赤おにが内省する気持ちにつなげる。	○ 友達にしてもらってうれしかったことを想起することができているかどうかを挙手の様子よりつかむ。 ○ 赤おにが、自分の欲求を満たして、村人と仲よく楽しんでいる、自己中心的な気持ちを考えることができたかどうかを発言よりつかむ。

時間	学習活動	教材等	教師の発問	期待する児童の発言や心の動き
(5分)	(2) 戸にはられた紙を見た時。	人物絵 手紙	③ 赤おには、涙を流しながら、どんなことを思ったでしょう。	③・青おにのことをすっかり忘れてしまっていた。 ・青おにのことをとても傷つけてしまっていたんだ。 ・青おにが出ていってしまったのは、すべて自分のせいだ。 ・青おにを大切にしていなかった。 (赤おにのせいで青おにが出ていってしまった。赤おにが青おにのことが、頭になかったことにはっと気づく。)
(7分)	(3) 赤おにが、青おにの気持ちを想像している時。	人物絵	④ 青おには、どんなことを思って旅に出たと赤おには想像したでしょう。	④・君には幸せになってほしい。 ・願いがかなってよかったね。 ・ぼくのこと忘れないでね。 ・遠くにいても友達だからね。 (青おには、本当に赤おにのことを思っていたんだ。)
(5分)	(4) これからのことを考えている時。		⑤ 赤おには、これからどう生きていこうと考えているでしょう。	⑤・自分のことばかり考えないでどの友達のことも同じように考えないといけない。 ・友達を失うことはつらい。相手のことをもっと考えていける自分にならなりたい。
5分	3 友達から受けた「うれしい」「ありがたい」という思いを感じている自分を見つめる。		⑥ みんなも友達っていいなと思ったことはありますか。	⑥・放課に、自分が鉄棒で逆上がりの練習をする時、友達と一緒に練習をしてくれてうれしかった。 (自分にも自分のことを考えてくれる友達がいることに気づく。)
5分	4 本時の学習を振り返り、自分と友達のことについて考える。		⑦ これからどんな気持ちで友達と接していきたいですか。プリントに書きましょう。	⑦・友達は、いつまでも大切にしたいな。友達の気持ちも考えていきたいな。 (今まで思っていた友達と違うところもあるなあ)

指導上の留意点（★は配慮を要する児童への働きかけ）	評価の観点と方法
自己中心的な考えをとらえ、内省している場 ○ 取り返しのつかなさを強調させるために、青おにがどこにいつてしまったかをあえて想像させ、人物絵もできるだけ遠くにはるようにする。 ○ 青おには、よい鬼だなどに類似した発言が出たとき、どのあたりがよさなのかを問い返して追求していきたい。追求することで、青おにの見返りを求めない心を明確にさせていく。 ○ 赤おにが自分を責めるような発言には、黄チョークで○をつけ、内省する心を押さえ、④の発問をする。	○ 赤おにが、青おにのことをすっかり忘れていたことに気づき、赤おにが自己中心的な考えを内省していく気持ちを考えることができたか、発言の様子よりつかむ。
他者の思いに目を向けている場 ○ 旅に出た様子を想像させるために子どもたちに目を閉じさせる。 ○ 発問の意図をはっきりさせるために、板書の人物図を使いながら、ゆっくりと発問していきたい。 ○ 子どもたちが想像した思いを道徳ノートに記述させ、記述後発表させる。	○ 青おにが旅に出たときの気持ちを想像させることで、青おにの赤おにに対する思いを感じ取ったときの気持ちをつかむことができたか、発言や挙手、記述よりつかむ。
(赤おに自身が) 自分を高める場 ○ 青おにを大切にしていなかったという発言がでたら、青おに＝友達と板書し、友達を想起させる。 ○ 大切にするとはどういうことかを問い返ししながら、友達を大切にしていくという意味について考えさせていく。	○ 青おにの、赤おにのことを心から考えてくれていた気持ちに気づくことができたか、発言よりつかむ。
○ 友達からの思いを受け取った時の思いを発表させるために「みんなも」と発問する。 ○ ①のように物や行為にこだわる場合は問い返し、相手のためにという純粋な気持ちに焦点をしばるようにしていく。 ○ 発言が出ない時、青おにのしたような行為を紹介していく。 ○ プリントを集める時に他の子の目に触れないようにする。 ★ 自分の姿で友達について書きづらい児童には、赤おにと青おにのことを想起させながら、自分のことを書くように助言する。	○ 自分を振り返りながら友達のことを語っているかどうかを子どもたちの表情や様子よりつかむ。 ○ 今日の学習を振り返って、自分から友達を大切にしていこうとする気持ちをもつことができたかどうかをプリントの記述よりつかむ。

5 備考

板書案



赤おに②

赤おに①

村人①～③

場面絵



(赤おに①)



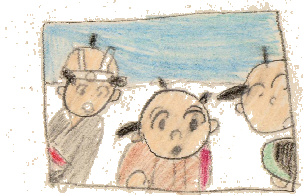
(赤おに②)



(青おに)



(村人①)



(村人②)



プリント【A5サイズ】 (開いていない状態)

ないた赤おに



(子どもの名前)



(観音開きで開いた状態)

これからどんな気持ちで
友達と接していきたいですか
